

■ 平成 22 年度事業概要 ■

I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

購入資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料等）	1,151 点
寄贈資料受入れ総数（同上）	2,614 点
	3,765 点
整理・保存	収蔵資料のコンピュータ入力並びに寄贈目録の作成等
閲覧	利用者 延 5,207 人

II 展覧会事業

(1) 展覧会開催事業

区分	事業名	実施時期 (日数)	観客数 (人)	展覧会の概要
	常設展 北海道の文学	通年 (308 日間)	8,997	北海道の文学を時系列に従いつつジャンル別に構成し、解説している。ビジュアルな展示スタイルに主眼を置き、直筆原稿・遺品・初版本・書簡・写真などの貴重な資料 1,350 点を公開している。(◎展示構成を次頁に掲載。)
	特別展 蘭 繁之の手仕事 “美”にこだわった 津軽の奇才	5/29(土) ～ 7/11(日) (38 日間)	1,840	平成 20 年 3 月に逝去した蘭繁之のコレクション展。生前世に送り出した豆本・特装本の他、収集した稀観本、版画等の美術品が当館に寄贈されたのを機に、広く道民に公開した。
	特別展 北斎漫画展 伝承版本が伝える 江戸の出版文化	7/24(土) ～ 9/5(日) (38 日間)	4,400	生誕 250 年の天才浮世絵師・葛飾北斎の代表作「北斎漫画」。近年、新発見された伝承版本と、その版本から再摺された当初のままの図版を展示し、「北斎漫画」の魅力と江戸出版文化の様相を紹介した。
	ファミリー文学館 開いてびっくり! しかけ絵本展	9/18(土) ～ 11/7(日) (45 日間)	5,190	子どもも大人も魅了させられる“しかけ絵本”。読む人を物語の世界へと誘い、好奇心をくすぐるしかけ絵本の魅力を、絵本の展示とワークショップをとおして紹介した。
	特別展 吉村昭と北海道 歴史を旅する 作家のまなざし	11/27(土) ～ 2/6(日) (57 日間)	3,350	記録小説、歴史小説の第一人者として創作活動を続けた吉村昭の「海の枢」、「罌嵐」、「赤い人」、「破獄」など、北海道を舞台にした作品を中心に紹介した。
貸館	小林 豊絵本原画展	5/15(土) ～ 5/23(日) (8 日間)	319	国を超えて多くの読者を魅了している絵本作家・小林豊の三部作「ぼくは弟とあるいた」「ぼくのいえから海がみえた」「ぼくと弟はあるきつづける」の絵本原画を一堂に展示。
貸館	脚本・台本の半世紀 ～今、札幌に 蘇るシナリオ達～	11/13(土) ～ 11/21(日) (8 日間)	422	日本脚本アーカイブス所蔵の 3 万 5 千冊の脚本や台本の中から、戦前のラジオ台本、テレビ草創期のドラマ脚本などの貴重な資料を展示。

【常設展プレミアム】

「日本人の遺書」

4月10日(土)～5月9日(日) 26日間 観覧者数 604人

「遺書」の言葉には、その時代と、人物のひととなり凝縮されている。当館所蔵の有島武郎・波多野秋子書簡を中心に、合田一道収集資料を加え、幕末期以降の文学者ほか歴史に名を残した人々の末期の姿を紹介した。

「《川柳王国》北海道の軌跡」

2月19日(土)～3月27日(日) 32日間 観覧者数 484人

平成 21 年度に受贈した塩見一釜コレクションにもとづき、戦後北海道川柳史の軌跡をたどり、北の暮らしの中に生まれた句が詠み込まれた色紙や短冊、直筆句集、各柳社の寄せ書きなど 800 点あまりの資料を一堂で紹介した。

【文学館アーカイブ（新着資料）コーナー】

- ・第1期展示〔4月1日(木)～6月30日(水)〕

児童雑誌と梁川剛一の挿画絵本

当館所蔵の貴重な児童雑誌と近年購入した画家・梁川剛一の挿画絵本に加えて、平成21年12月に完成した「函館児童雑誌コレクション及び北海道児童雑誌データベース」を紹介した。

- ・第2期展示〔7月1日(木)～9月30日(木)〕

昭和20年代の雑誌に見る 戦中・終戦・戦後

終戦から戦後へとめまぐるしい変化に見舞われた昭和20年に発行された稀少雑誌を平澤秀和氏のコレクションから紹介するとともに、戦後北海道出版ブームを背景に出版された「札幌版」の書物を当館所蔵資料から紹介した。

- ・第3期展示〔10月1日(金)～12月28日(火)〕

没後1年 原田康子の自宅書庫から

没後1年を期に、当館に寄贈された原田康子の資料の中から、「挽歌」出版記念の寄せ書き色紙や映画「挽歌」の場面設定ノートなど、特に貴重な資料を紹介した。

- ・第4期展示〔1月12日(水)～3月31日(木)〕

安保闘争と短歌 清原日出夫と岸上大作

日米安保条約改定への大規模な反対運動、「60年安保闘争」から50年経った。この安保闘争を題材にした「安保闘争詠」の代表的な詠み手である清原日出夫と岸上大作。「西の清原、東の岸上」と称された二人の学生歌人の作品を当館所蔵資料とともに紹介した。

(2) 常設展の展示構成

〈北海道の文学、その歴史〉〔神谷忠孝・平原一良〕

◆20世紀への胎動 久保栄「五稜郭血書全5幕」自筆原稿、北方謙三「林蔵の貌」自筆原稿、高倉新一郎『札幌農学校』 ◆助走期の苦闘 有島武郎・木田金次郎宛書簡、武者小路実篤「武郎さんと僕」自筆原稿、雑誌「白樺」 ◆漂泊と彷徨 国木田独歩「欺かざるの記」複製原稿、幸田露伴「二日物語 此一日」複製原稿、石川啄木「雲は天才である」複製原稿 ◆道産子作家の誕生 武林無想庵「アルバム」自筆原稿、森田たま「きもの博士」自筆原稿、中戸川吉二・久米艶子宛書簡 ◆逆流のさなかで 小林多喜二「故里の顔」複製原稿、久保栄「火山灰地」自筆原稿、本庄陸男「逆流」自筆原稿 ◆モダニズムの台頭 伊藤整「文学的青春伝」自筆原稿、中村武羅夫自筆色紙、岡田三郎「かぼちゃ談義」自筆原稿 ◆戦火の中で 辻村もと子「馬追原野」自筆原稿、石塚喜久三「花の海」自筆原稿、坂本直行自筆カット原画 ◆復興と再生 畔柳二美「こぶしの花の咲くころ」自筆原稿、風巻景次郎「札幌地理学」複製原稿、船山馨遺品 ◆成長期の精華 雑誌「北海文学」(原田康子「挽歌」掲載)、和田芳恵「五十年ぶりの帰郷」自筆原稿、李恢成自筆色紙、三浦綾子短冊(三浦光世筆) ◆変転する現代 高橋揆一郎「『仲予』覚え書き」自筆原稿、吉村昭「赤い人」自筆原稿、渡辺淳一「リラ冷えの街」自筆原稿

〈北海道の詩〉〔原子修〕

◆「現代の詩」の創造に挑んだ〈風の詩人〉たち 吉田一穂「魚歌」自筆扁額、小熊秀雄画「裸婦」 ◆「現代の詩」を北の大地に根づかせた〈土の詩人〉たち 更科源蔵「河童十二ヶ月」複製原稿、和田徹三「命」自筆原稿、河邨文一郎「オホーツク」自筆原稿 ◆「現代の詩」の新しい可能性を求めて 原子修自筆色紙

〈北海道の短歌〉〔山名康郎〕

◆北海道歌壇の動き 山下秀之助、酒井廣治、小田観螢、中城ふみ子ほか ◆来道歌人 斎藤茂吉、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤史、宮柊二ほか ◆口語短歌 鳴海要吉、石川啄木ほか ◆アイヌの歌人 バチラー八重子、遼星北斗、森竹竹市ほか

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

◆北方俳句の夜明け 松窓乙二、河東碧梧桐、牛島勝六、高浜虚子、長谷川零餘子、臼田亜浪、石田雨園子、青木郭公ほか ◆俳句近代化への潮流 荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか ◆花ひらく北の俳句 斎藤玄、寺田京子、比良暮雪ほか ◆俳句の現代 佐々木丁冬、鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔青柳文吉〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

◆明治～昭和前期 鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、田中五呂八ほか ◆昭和後期～平成7年 西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子 ◆北海道の川柳社 道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介。

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

◆明治～昭和20年代 伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか ◆昭和30年代 石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか ◆昭和40年代以降 加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

III 教育普及事業

注：「事業項目」の無印は道負担金事業、※は財団企画事業。

事業項目	事業名	実施時期(日数)	観覧(参加)者 実績数(人)	備考	
	巡回展	「藤倉英幸と旅のイメージ」 道内3会場で実施	4/16～6/9、6/18～ 7/19、9/11～10/11	4,696	
	講演会・ セミナー・講話等	文芸セミナー 「遺書が映し出す時代の風」 (講師：合田一道)	4/18(日)	47	常設展プレミアム 「日本人の遺書」 関連事業
	〃	絵画教室「小林豊さんといっしょに、 絵を描こう！」(講師：小林 豊)	5/15(土)	40	「小林豊絵本原画 展」関連事業
	〃	ギャラリートーク 「ぼくと弟のものがたり」 (講師：小林 豊)	5/15(土)	32	〃
	〃	「大人とこどものためのミニコン サート」 (演奏：ギター・佐藤洋一、バイオリ ン・山家牧人)	5/15(土)	25	〃
	〃	「ブックトーク with 手遊びと童歌」 (出演：子どもの本プロジェクトメ ンバー)	5/16(日)	21	〃
	〃	ギャラリートーク(講師：小林 豊)	5/16(日)	21	〃
	〃	小林豊と池田春子のお話会 (講師：小林豊、池田春子)	5/16(日)	32	〃
	〃	絵本のリレー読み聞かせ(出演：子 どもの本プロジェクトメンバー)	5/16(日)	30	〃
	〃	講演会「蘭繁之との30年／蘭繁之の 手仕事を語る」 (講師：川村慶子、櫻井健治)	5/29(土)	39	「蘭繁之展」 関連事業
	〃	展示室講話「蘭繁之の“美”への関 心」(講師：当館副館長)	6/12(土)	8	〃
	〃	展示資料熟覧会「手にして眺める特 装本あれこれ」(講師：当館司書)	6/19(土)	20	〃
	〃	展示室講話「蘭繁之の“美”への関 心」(講師：当館副館長)	7/3(土)	14	〃
	〃	展示資料熟覧会「手にして眺める特 装本あれこれ」(講師：当館司書)	7/10(土)	38	〃
	〃	展示室講話「浮世絵と江戸の出版文 化」(講師：当館学芸主幹)	7/31(土)	35	「北斎漫画展」 関連事業
	〃	展示室講話「浮世絵と江戸の出版文 化」(講師：当館学芸主幹)	8/14(土)	35	〃
	〃	展示室講話「浮世絵と江戸の出版文 化」(講師：当館学芸主幹)	8/28(土)	49	〃
	〃	文芸講演会「北斎漫画と伝承版木が 語るもの」(講師：福島清剛)	8/7(土)	90	〃
	〃	文芸トーク「吉村昭のおもかげ」 (講師：津村節子)	11/27(土)	115	「吉村昭展」 関連事業
	〃	文芸講演会「吉村昭との交流」 (講師：川西政明)	12/18(土)	82	〃
	〃	吉村昭原作映画上映会「密会」	12/19(日)	74	〃
	〃	吉村昭読書会「死顔」 (講師：当館副館長)	12/5(日)	16	〃
	〃	吉村昭読書会「海も暮れきる」 (講師：五十嵐秀彦)	12/12(日)	21	〃
	〃	吉村昭読書会「赤い人」 (講師：当館学芸員)	12/26(日)	20	〃
	〃	吉村昭読書会「戦艦武蔵」 (講師：当館学芸主幹)	1/29(土)	11	〃
	〃	吉村昭原作映画上映会「魚影の群れ」	1/16(日)	64	〃
	〃	文芸セミナー「《川柳王国》北海道の 軌跡」(講師：塩見一釜)	2/27(日)	90	「川柳王国展」 関連事業
※	〃	連携公開講座「奈良とアイヌをつな ぐ文化セミナー」(講師：森 郁夫)	9/19(日)	35	

教育普及事業

事業項目		事業名	実施時期(日数)	観覧(参加)者 実績数(人)	備考
教育普及事業	※ 連続朗読会	「吉村昭の北海道～朗読で味わう作品の世界」 (朗読：田村英一、館野直光、ギター：平佐修、佐藤洋一、廣田幸政)	11/5(金)、12/3(金)、 1/14(金)	127	
	※ ウィークエンド・カレッジ	「児童文学創作教室」等6講座	5月～3月の金、土	310	
	※ ロビーコンサート	ジャズ演奏(演奏：BakerStreet)	11/3(水・祝)	53	
	文学道場	「中・高生のための創作講座」	7/28(水)～30(金)	30	
	小・中学生短歌コンテスト	夏休み期間中、小・中学生を対象に作品を募集し、優秀作品を表彰	7/6(火)～8/30(月)	2,540	
	〃	夏休み小・中学生短歌コンテスト表彰式	10/16(土)	50	
	ファミリー文学館	ワークショップ「しかけ絵本をつくらう」(講師：当館学芸員)	10/2(土)、3(日)	22	ファミリー文学館 関連事業
	〃	ギャラリートーク「しかけ絵本を知ろう」(講師：当館学芸員)	10/17(日)、30(土)	50	〃
	〃	読み聞かせ「しかけ絵本のおはなし会」(講師：当館職員)	9/20(月・祝)、 11/3(水・祝)	47	〃
	※ わくわくこどもランド	紙芝居、読み聞かせ、工作教室などに親子で参加	16回開催	697	
	※ 文学館まつり	ギャラリー文学館、文学館演芸場、子ども広場、秋のミニ色紙づくりなど	9/23(木・祝)	761	
	映画鑑賞会	「幕末てなもんや大騒動」 (原作：香川登志緒、1967年作品)	6/13(日)	91	
	映画鑑賞会	「陽のあたる坂道」 (原作：石坂洋次郎、1958年作品)	8/8(日)	83	
	映画鑑賞会	「男はつらいよ 寅次郎かもめ歌」 (原作：山田洋次、1980年作品)	11/28(日)	74	
	映画鑑賞会	「真剣勝負」 (原作：吉川英治、1971年作品)	2/20(日)	79	
	市町村連携事業 「文学館出前講座」	市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催した。	20地域	1,925	
	文字・活字文化の 振興事業	「中山周三の短歌」(講師：村井宏)	10/31(日)	53	
	※ 文化団体協働事業	平成22年度道民芸術祭 「北を詠い描く展」	1/18(火)～30(日)	803	
	※ 道民カレッジ 連携講座	3講座実施	6/6(日)、7/4(日)、 8/1(日)	194	
	※ 文化施設連携事業	「カルチャーナイト2010」 展示室の夜間開館等を実施	7/23(金)	278	
	※ 文化公演の活動	コンサート、朗読会の会場に利用	閉館後の夜間	741	
文学資料の利用	閲覧室での研究、調査、読書等	通年(308日間)	5,207		
文学愛好団体の活動	文学愛好団体が講堂利用(貸館)	通年(308日間)	1,106		
※ 小学生向け事業	「文学館たんけんクイズ」	通年(308日間)	291		
教育普及事業参加者 計				21,422	

IV 北海道文学に関する調査研究事業

- ① 常設展プレミアム「日本人の遺書」関連資料調査
- ② 特別展「蘭繁之の手仕事」関連資料調査
- ③ 特別展「北斎漫画展」関連資料調査
- ④ ファミリー文学館「開いてびっくり! しかけ絵本展」関連資料調査
- ⑤ 特別展「吉村昭と北海道」関連資料調査
- ⑥ 常設展プレミアム「《川柳王国》北海道の軌跡」関連資料調査
- ⑦ 特別展の図録作成に要する調査
- ⑧ 次年度の常設展プレミアム関連資料調査
- ⑨ 後藤竜二、高田三郎、小泉るみ子の関連資料調査
- ⑩ 福永武彦の関連資料調査
- ⑪ あべ弘士の関連資料調査

- ⑫ 林静一の関連資料調査
- ⑬ 李恢成の関連資料調査

V 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

次の団体の事業に対して、後援名義並びに共催名義の使用を承認して支援した。

- ① 財団法人北海道生涯学習協会
「ほっかいどう学」かでの移動講座
(平成22年6月6日、7月4日、8月1日 北海道立文学館地階講堂)
- ② 加藤周一ドキュメンタリー映画上映実行委員会
「加藤周一ドキュメンタリー映画『しかし、それだけではない』上映会」
(平成22年5月9日 共済ホール)
- ③ 中川町教育委員会
斎藤茂吉記念第17回中川町短歌フェスティバル
(平成22年6月1日～10月31日 中川町)
- ④ 「熊谷ユリヤ 出版記念朗読コンサート」実行委員会
「熊谷ユリヤ 出版記念朗読コンサート」
(平成22年6月11日 札幌市時計台ホール)
- ⑤ NPO法人 絵本・児童文学研究センター
絵本・児童文学研究センター 第15回文化セミナー
「今までの絵本、これからの絵本」
(平成22年11月21日 小樽市民センター「マリンホール」)
- ⑥ NPO法人 CCC-TIES
eカレッジ連携公開講座
「奈良とアイヌをつなぐ文化セミナー in 北海道」
(平成22年9月19日 北海道立文学館講堂)
- ⑦ 北海道文化団体協議会
平成22年度道民芸術祭
「北を詠い描く」～文芸・美術作品展～
(平成23年1月18日～30日 北海道立文学館)
- ⑧ 「バイリンガル朗読とハーブ：愛の詩」実行委員会
「バイリンガル朗読とハーブ：愛の詩」
(平成23年2月13日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑨ ギター大好き恵子ママのホームページ
「猪居謙ギターリサイタル」
(平成23年3月12日 北海道立文学館地階ロビー)

VI 啓発広報事業

- ① 事業案内、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を制作・発行し、道内外の文学館、道内の博物館や図書館、札幌市内の地区センター、区民センター、カルチャーセンター、主要ホテル、観光案内所等に配布した。又、JR札幌駅、地下鉄各駅構内にポスターの掲示を行った。更に、展覧会の開催をPRするため、新聞紙上で有料広告を行った。
- ② 「北海道文学館報」第81号(5月31日付)、第82号(8月6日付)、第83号(11月10日付)、第84号(2月18日付)を発行した。

VII 刊行物の刊行事業

- ① 特別展「蘭繁之展」図録の刊行
- ② 特別展「吉村昭展」図録の刊行
- ③ 「平成21年度年報」の刊行

VIII その他の付帯事業

- ① 「北海道文学大事典」(補遺版)の編集作業
標記補遺版(人名編)発行のための編集作業を行った。この作業は平成23年度も継続して行う。
- ② 博物館実習生の受入
博物館実習生—10名(受入期間 7月～1月。実習期間 2週間)